

生涯学習社会における放送大学の取組について

第58回生涯学習分科会
放送大学学園

放送大学は、いつでもどこでも誰でも学ぶことができる生涯学習の中核的高等教育機関として、人々のあらゆるライフステージに応じた授業を展開し広範な生涯学習ニーズに応えるとともに、地域社会と連携した学びを提供することで、地域とのつながりの構築に貢献しています。

1. 各ライフステージに応じた放送大学の授業展開

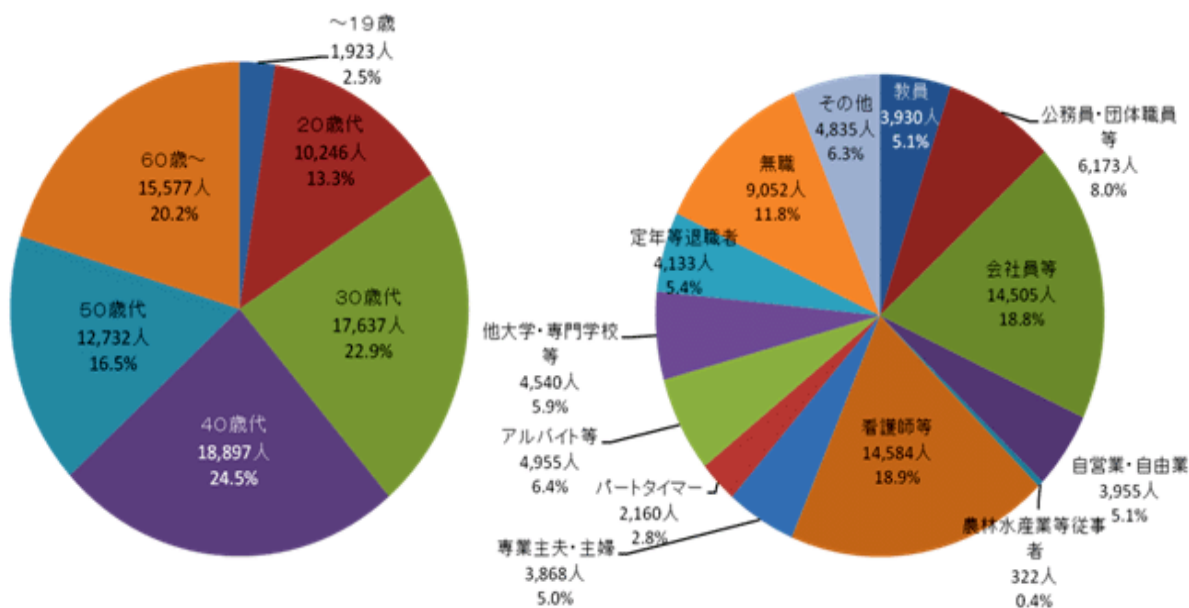
(1) 多様な年齢層、属性の学生が在籍

放送大学では、放送という身近なツールを用いた授業を展開することで、15才～97才までという非常に幅広い年齢層の学生が放送大学で学んでおり、また、働きながらスキルアップのために学ぶ学生、定年退職後自身の教養を深めるために学ぶ学生等、あらゆる属性の学生が在籍しています。

【図1】 年齢層別、職業別年齢層別年齢層

【平成23年第1学期年齢層別在学者の割合(学部)】

【平成23年度第1学期職業別在学者の割合(学部)】



(2) ライフステージに応じた授業科目等の提供

このように、非常に多様な年齢層、属性の学生が在籍する中、放送大学では、教養系の科目から資格関連科目まで、各学生がそれぞれの目的を達成するために必要な授業科目を幅広く提供することで、国民の皆様方の広範な生涯学習ニーズに応えております。

また、科目群履認証制度(放送大学エキスパート)を24プラン用意しており、学生が興味ある分野の体系的な学修を支援しています。

【表1】平成23年度放送授業科目数

	テレビ	ラジオ	合計
大学	142	125	267
大学院	30	38	68
合計	172	163	335

【表2】各ライフステージに人気の科目

社会人に人気の科目	「基礎からの英文法」 「問題発見と解決の技法」 「社会と銀行」 「心理学入門」
シニア世代に人気の科目	「身近な気象学」 「イスラム世界の歴史的展開」 「日本古代中世史」 「高齢者の生活保障」
10代に人気の科目	「基礎からの英文法」 「初歩からの生物学」 「初歩からの物理学」

【表3】科目群履認証制度（放送大学エキスパート）の例

例)	実践経営学プラン、芸術系博物館プラン 健康福祉指導プラン、宇宙・地球科学プラン、 心理学基礎プラン、異文化コミュニケーションプラン
----	---

2. 地域社会との連携による放送大学の授業提供について

(1) 地域の特性に応じた面接授業、公開講座の提供

放送大学は各都道府県に学習センターを設置しており、地域企業、社会教育機関等とも連携をしながら、その地域の特性に合わせた面接授業や公開講座を数多く提供しています。

面接授業

学習センター等において、教員と学生が対面して直接指導を受ける授業（一般にスクーリングとよばれる）であり、大学通信教育設置基準上定められる正規の授業科目である。企画・立案については各学習センター所長が総括的な責任を持っており、各学習センターの独自性・地域性を発揮した授業を行っている。授業については全国の学生が参加可能であり、学生にとっては、他の学生との交流の機会としても重要な役割を果たしている。

【表4】面接授業科目について

《地域貢献関連科目例》（平成年23年度 開設科目数2866科目）

地域の課題を解決しよう（平成23年度第2学期 群馬学習センター）

・成熟社会においては、地域社会が抱えている問題を解決しようと話しあってみると多種多様な意見が出てくる。地域社会の方向性を決めるためにはそういった意見をまとめるプロセスが必要となり、そのプロセスの一端を演習形式を通じて体得していく。

地域文化と生涯学習（平成23年度第2学期 長野学習センター）

・地域社会の活性化にとって、地域文化を生涯学習に取り入れることの重要性について、全国各地の具体的な事例を通して考察する。

都市生活の社会学（平成23年度第2学期 北海道学習センター）

・「自分が暮らす街の魅力や問題に、市民個人がどのように関わることができるか」を考えるため、都市社会学のサブカルチャー論とコミュニティ論を学ぶ。

【表5】公開講座科目数

平成23年9月5日現在の開催数	285講座（予定を含む）
（平成22年度実績 374講座 21,220人が参加）	

《地域貢献に資する公開講座例》

事例 震災特別セミナーの実施（岩手学習センター）

東日本大震災を受け、5月1日に所長特別セミナー（緊急）「平成の大津波と復興の課題」を開催。定員60名のところ、158%の95名の一般参加があった。報道機関（テレビ局や新聞社）スタッフも含めると、100名以上の参加であり、地元テレビ局や地元紙にも取り上げられた。

事例 地域と連携した体験講座の実施（徳島学習センター）

徳島県立 21 世紀館と連携し、名月座の方々を講師に迎えて、参加型体験イベント「阿波人形浄瑠璃～みて、さわって、つかって、木偶と遊ぼう！」を開催。イベントには、幼稚園児を含む 125 名が参加し、三味線、口上、人形遣い等を体験。徳島の伝統芸能である阿波人形浄瑠璃への普及につながった。

(2) 地域と連携した学生の活動

放送大学の各学習センターでは、各学生が互いに研究やスポーツ等のためにサークルを結成したり、文化的行事や講演会を開催するなどの活動を行っており、その中には、地域と連携した活動を行っている団体等も存在しています。

事例 宇都宮市まちづくり提案発表会で第 1 位獲得！

宇都宮市では毎年行っている「大学生によるまちづくり提案」事業に、**放送大学栃木学習センター学生有志による「まちづくり研究会」が参加したところ、見事第一位を獲得。**

平均年齢 60 歳超の放送大学栃木学習センター「まちづくり研究会」は、「中心商店街衰退問題」と「超高齢社会問題」という宇都宮市が抱える 2 つの大きな問題をかけあわずことで、問題を問題で解決しようというドラスティックな試みを提案。具体的には、蓄えと年金で暮らすことができるシニア世代が商店街の空き店舗を活用し、商店街全体を活性化させるようなビジネス（「シニア・ビジネス」）を行うというものである。これは、シニア世代が現役時代に培った知識や技術等の能力発揮の機会となることから、彼らの生きがいにもつながるものである。

発表終了後、審査員から「放送大学の提案は人生経験がにじみ出る内容。出色だった」との講評があり、地域貢献に資する活動となった。

事例 サークル活動で地域の子どもの学びを支援

徳島学習センターでは、400 年前にインドネシアから中国大陸を経て熊本県に伝わった遊びである「ちょんかけごま」サークルが活動している。

サークルの学生達は、地域の子どもたちにも熊本の伝統ある昔遊びに触れてほしいとの思いから近隣の小学校に出向き、「ちょんかけごま」の遊び方について教えるなど、子ども達の地域学習に資する取組を行っている。教えた後には、子ども達から感謝の手紙を送られるなど、大変好評である。

事例 地域と連携した文化祭の開催

岩手学習センターでは毎年 10 月、所属学生で構成している「学友会」と岩手学習センター職員、そして地域の方々の協力も得ながら、「学友祭」を開催している。

温泉直送の足湯コーナーや地元農家からの提供された野菜等を販売する産直コーナー等、学生及び地元の方々との活発な交流が生まれ、毎年非常に盛況している。

このような学生と職員、地域の方々とが連携した文化祭は、多くの学習センターにおいて行われているところである。